

|                                                                                  |                                                                                  |                                                                                  |                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 議 長                                                                              | 事務局 長                                                                            | 係 長                                                                              | 係                                                                                |
|  |  |  |  |

令和 5 年 8 月 2 日

藤崎町議会議長

小野 稔 殿

藤崎町議会議員(総務産業常任委員会)

五十嵐 忍 石澤 貴幸

奈良 完治 藤林 公正

小野 稔

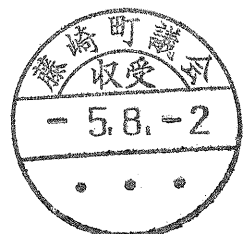
## 議員研修報告書

下記のとおり、議員研修を実施しましたので、ご報告いたします。

### 記

1. 研修目的 ・原子燃料関連施設における安全対策の取り組み等について
2. 研修場所 ①六ヶ所村 : (六ヶ所原子燃料サイクル施設)  
②大間町 : (電源開発大間原子力発電所)  
③むつ市 : (RFS リサイクル燃料貯蔵㈱)
3. 研修期間 令和 5 年 7 月 10 日(月)から 7 月 11 日(火)まで
4. 研修結果 別紙のとおり

以上



## 研修報告

【第1日】令和5年7月10日(月)

場所:六ヶ所原子燃料サイクル施設

対応者:技術広報担当 山田 立哉氏 他数名

### 〈視察事項〉

- ・原子燃料関連施設における安全対策の取り組み等について
- ・再処理工場の安全性向上に向けた取り組みについて

### 〈視察内容〉

はじめに会議室にて、山田氏から施設全般についての概要説明がなされ、まずは、六ヶ所原燃 PR センター内を視察。原子力発電の仕組み、及び安全への取り組みについて、関係者の方々の説明を聞きながら、その都度こちらの質問に答える形で一周した。その後、バスに乗り込んで厳格な警備の中、ウラン濃縮工場、低レベル廃棄物埋設地を車中から見学し、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターではバスを降りて建物内に入り、貯蔵ピットを窓越しに確認する。最後は会議室に戻り、質疑応答や意見交換をして終了。

### 〈所感〉

今後 MOX 燃料工場の建設等、核燃料サイクルのための核燃料コンビナートの計画地であり、その敷地面積の広さに驚く。六ヶ所原燃 PR センターの展望塔からは現実とは思えない光景が広がっていた。

東日本大震災後、現在は関西や九州の一部で稼働している原子力発電所があるものの、東日本と北海道では停止中となっており、日本全体では化石燃料による火力発電の割合が70%を超え、これはなお増加傾向にある。然るに家計を圧迫するエネルギー高騰が大問題となっており、政府は原発の稼働年数を伸ばすなど、原子力発電の再稼働に必死だ。

では、放射性廃棄物に対する安全についてはどうだろうか。見学した低レベル放射性廃棄物貯蔵施設は、地中のコンクリートの建物が満杯になったら、上から土をかぶせて埋めて、300 年間管理すると説明があった。気が遠くなるような時間、それほどものを負の遺産として管理し続けなければいけないことを知り、これからはじまる再処理工場も含め、ますます安全対策への取り組みに目が離せない、一議員としてこれからも注視していくことを心に刻んだ。

【第2日】令和5年7月11日(火)

午前

場所:大間原子力発電所

対応者:副所長 矢尾板 一之氏

副所長 阪本 任範氏

午後

場所:RFS リサイクル燃料貯蔵株式会社

#### 〈視察事項〉

・原子燃料関連施設における安全対策の取組み等について

#### 〈視察内容〉

大間原子力発電所では建設中の工事状況を視察。新規制基準(平成25年7月施行)を踏まえながら、さらなる安全性の向上を目指す強化対策について意見を交わした。

午後は場所を移し、RFS リサイクル燃料貯蔵施設において、近い将来はじまるリサイクル燃料備蓄の受け入れ態勢と管理への安全対策の取組みについて視察した。

#### 〈所感〉

二日目に訪れたこれらの施設は、どちらもまだ稼働していない。だからこそ安全対策についての視察は大きな意味をもつ。

最初の大間原発では、建設中ということで作業着とヘルメットを着用しての視察となった。工事を中断しているという私たちの認識に対し、正確には新規制基準を一つひとつクリアするための追加工事が行われているとのことであった。福島第一原発で教訓を得た、津波に影響を受けない予備電源の確保や、他には、故意の航空機衝突などのテロも想定しており、稼働に向けてあらゆる安全強化対策を行っているとの説明があった。視察中、長引く工期による剥き出しの鉄骨が錆びてきているのが気になったが、これについては最終チェックをし、不備があれば交換するとの説明があり、最後は安全に対する意見交換をして終了した。

次にむつ市に移動し、リサイクル燃料貯蔵施設を視察。こちらはすでに一棟目の建設工事は終了し、現在は新規制基準による追加安全対策工事もほぼ終わり、申請後の検査を待っているとのことであった。一棟目にある程度搬入されたら二棟目を建設し、合わせて5,000トンの使用済燃料を50年間貯蔵する計画とのことで、リサイクル事業との関連からその先は未定とのことであった。安全に使用済み燃料を内包した金属キャスクと呼ばれるものを貯蔵するだけの施設で、比較的安全と言われるこの

貯蔵庫の作りは単純で、頑丈な倉庫のようであった。ここでも津波対策として万全を期した予備電源を高台に確保する追加工事を終えていることを確認した。

以上をもって、原子燃料関連施設における安全対策の取組み等についての視察を終了した。

|                                                                                  |                                                                                  |                                                                                  |                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 議 長                                                                              | 事務局長                                                                             | 係 長                                                                              | 係                                                                                |
|  |  |  |  |

令和5年6月16日

藤崎町議会

議 長 小 野

稔 殿

藤崎町議会議員（総務産業常任委員会）

五十嵐 忍

石 澤 貴 幸

奈 良 完 治

藤 林 公 正

小 野 稔

## 議 員 研 修 計 画 書

このことについて、下記のとおり実施計画書を提出します。

### 記

- 期 日 令和5年7月10日（月）～ 令和5年7月11日（火）
- 研修先 ①六ヶ所村  
（研修場所：六ヶ所原子燃料サイクル施設）  
②大間町  
（研修場所：電源開発大間原子力発電所）  
③むつ市  
（研修場所：RFS リサイクル燃料貯蔵（株））
- 研修目的 ・原子燃料関連施設における安全対策の取り組み等について
- 代表者 五十嵐 忍



## 藤崎町議会 総務産業常任委員会 視察研修行程

1 日目 令和 5 年 7 月 1 0 日（月）

7 時 5 0 分

役場正面玄関前集合

8 時 0 0 分～

役場出発

1 0 時 0 0 分～ 1 2 時 5 0 分 P R 館にて概要説明、施設等の視察

- ・濃縮工場
- ・低レベル埋設地
- ・高レベル管理施設
- ・安全対策工事現場

1 7 時 0 0 分～ 1 7 時 3 0 分 佐井村内 宿泊

2 日目 令和 5 年 7 月 1 1 日（火）

9 時 0 0 分～

佐井村内 宿泊施設 出発

9 時 3 0 分～ 1 1 時 3 0 分 「電源開発大間原子力発電所」を視察

1 3 時 3 0 分～ 1 4 時 3 0 分 「R F S リサイクル燃料貯蔵」を視察

1 7 時 0 0 分 役場到着 解散